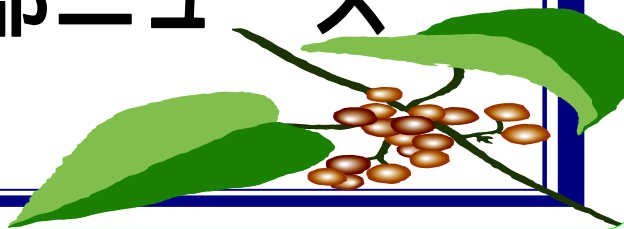


女性部ニュース

建交労東京女性部

2009年3月3日 51

T:3820-8644 F:3820-8646



2009年全労連女性部菜の花行動

2月13日はいつもより暖かく、花粉が舞い飛ぶには絶好日和でした。

中央総行動は全労連、東京地評、建設関連労組首都圏共闘会議主催で行われ、財界・大企業包囲行動、省庁要請・請願行動等がおこなわれた。なくせ貧困!仕事よこせ、守ろう雇用と暮らし!のスローガンを掲げ、第1波は12時から(民間、公務、正規・非正規、パート、女性、青年、中小・自営業者、農漁民、医療・福祉など)、第2波は2時から(建設関連労働者中心)それぞれ日比谷野外音楽堂で決起集会が開かれた。第1波の全労連女性部は菜の花行動と位置づけ、マリオン前の早朝宣伝行動を皮切りに、厚生労働省・内閣府・女性国会議員等への要請の後、正午から日比谷野音の決起集会に参加した。政治をカエル、社会をカエル、はたらきかたをカエルのプラカードを持った、美人の青ガエルたちは銀座デモへと出発した。惜しくもパフォーマンスコンテストは第2位!残念でした。

第2波建設労働者の集会は壇上に参加組織の代表があがり紹介された。建交労都本部から関東地区協議会代表として松田委員長が登壇。参加者は4,300人で会場はほぼ満席になりました。今後共同と連帯を大きくして、人間らしい働き方を築くためにそれぞれの代表から決意表明がありました。

その後大手ゼネコンは利益を労働者と下請けに還元せよ!コスト削減競争を正せ!偽装請負・違法派遣の根絶を!貧困をなくせ!と国会に向けデモ行進しました。



「年越し派遣村」のボランティアに参加して

片山組分会 広川陽子

お正月の2日、「行けば、何か手伝うことがあるかもしれない。」と思いたち、おにぎり、ゆでたまご、みかんを持って日比谷公園の派遣村に到着。受付で差し入れを渡し、ボランティア用のバンダナと手袋を受け取り、宿泊用のテントの前で大勢のボランティアに混じって、ねぎ、にんじんなどの野菜を洗って、炊き出しの準備をする。派遣切りなどで、職と食べ物と住居を失った労働者は、200人、300人と増え、シェフは不眠不休で食事の用意をしていた。聴診器を掛けてテントを往診する医師や看護師。美容師のボランティアの前には散髪を希望する長い列。全国の農民からは米2トン、野菜、果物が寄せられ、うず高く積まれていた。年末、年始の6日間、テレビや新聞で知り全国からやってきた労働者は約500人、直接支えたボランティアは1,700人、募金4,300万円。残ったお金は「派遣村活動基金」として、全国の「派遣切り」にあった労働者らの支援にあてることになった。

今回の派遣村開設は、いろいろな労働組合や市民団体が協力して実現しました。しかし、「派遣切り」の実態がマスコミで報道され、社会問題になっているにもかかわらず、一番責任を負うべき当の輸出大企業の「非正規切り」は続き、厚労省の調査では、3月までに12万5千人が失職する、としています。また、派遣・請負業界は3月までに40万人が失職すると推計。人間らしく生き、働くために働組合の役割がいよいよ増していることを感じた体験でした。(機関紙クランプより)